

八百比丘尼伝説 —山陰を中心にその伝承の種々相を考える—

酒 井 ^{ただ} 董 ^{よし} 美

Tadayoshi SAKAI : The legend of "Happyakubikuni"—Various Aspects of the Legend Predominantly in SanIn Area.

わが国には「八百比丘尼」に関する伝説が多く、27都府県にわたって存在していることが、これまでの文献から明らかになっている。要旨は、漁師たちが竜宮に招かれて、人魚の肉を料理に出されるがだれも食べない。たまたま一人がそれを持ち帰り、その娘が食べたところ八百歳の長寿を得、しかも容姿は若い娘のままである。娘は比丘尼となって諸国を行脚し、植樹をしたり橋などを建立したりするが、最後は若狭の国で入定するというのが一般的な形である。本稿ではこの説話と「浦島太郎」の説話を対比させながら、人々の長寿を願う気持ちを背景に、祖霊信仰を踏まえて成立したものであることを、民俗学の立場から考察したものである。

キーワード：八百比丘尼 竜宮 祖霊信仰 人魚の肉 長寿

1 伝説の特色—はじめに代えて—

八百歳の年齢を生きた尼僧の伝説が各地に伝えられている。多くは「やおびくに」と呼んでいるようだが、「はっぴゃくびくに」とするところもある。この伝説の本家を自称している福井県小浜市でもそうであり、鳥取県米子市粟島^{あわしま}の伝説では、「はっぴゃくびく（「に」は省略される）」と称している。全国的に眺めても内容的にはほとんど同じである。考察をする前にまずは、平均的な形を持っている富山県の例を挙げておく。

【参考事例1】 富山県中新川郡立山町下田の伝承

中新川郡立山町下田には昔、家が四軒しかなかった。そこに四郎兵衛という家があった。あるお講の日に、村の者が寄って聴聞をすることになっていた。が、そのとき、前立の女が私の家で宿をするから来てくれと頼んだので、村の者は聴聞に行くこと

になった。

いよいよ女の家へ着くと、大へんな料理を出してくれて、皆楽しんで帰った。帰るときに、折詰をもらってきたが、四郎兵衛は、その折詰を戸棚の中へ入れて外出してしまうた。

留守中に娘が折詰をみつけて、これはうまいということ皆食べてしまうた。実は、これが龍神の化身ともいう人魚の肉であった。この娘は、どうしたことか、この肉を食べてから何年たっても年がいかない。村の人の話では、この娘は何百年も生き永えたということだ。そして、肌が白かったので、白比丘尼といった。

昼間外へ出るのがいやで、夜になると往来したので、村の者は殆んど顔もしらんだということだ。ところがある晩、下男に顔をみられてからは、お別れに村の白山社に一本杉をうえて、遠くへ立去ってしまうたということだ。

白比丘尼は、それから若狭の国へ行って、八百比丘尼になったといわれる。今も、白比丘尼が往来し

【表1】都道府県別八百比丘尼伝説伝承地の有無

	伝承の確認されているところ	伝承の確認されていないところ
北海道	—	北海道
東北地方	福島	青森・岩手・宮城・秋田・山形
関東地方	栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川	茨木
中部地方	新潟・富山・石川・福井・岐阜・愛知・山梨・長野	静岡
近畿地方	三重・京都・和歌山・兵庫	滋賀・大阪・奈良
中国地方	鳥取・島根・岡山・広島	山口
四国地方	香川・高知	徳島・愛媛
九州地方	福岡・熊本	佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島
沖縄	—	沖縄
合 計	27都府県	20道府県

た川を若狭川という。近くの高野、野町の神明社の老松もこの白比丘尼がうえたものだと言っている。

（五百石区域小学校長会郷土史研究部編『五百石地方郷土史要』昭和十年・同郷土史研究部）

おおむね、各地の伝承ともこのような内容である。ただ白比丘尼が八百比丘尼となるとするのは北陸地方に限られているようだ。全国の同類から主なモチーフを抽出してあげると次のようになる。

- 1) (a)漁師たちが庚申講（頼母子講）などを行う。
(b)漁師たちが竜宮などへ招かれる。(c)一人の漁師が竜宮へ招かれる。
- 2) 料理に人魚の肉が出るが、みなはそれを食べない。
- 3) 土産にその肉をもらう。
- 4) 帰り道にその肉を捨てるが、一人はそのまま持ち帰る。
- 5) 娘がその肉を食べる。
- 6) 娘はいくら経っても年は取らない。
- 7) 娘は尼になって諸国を巡行し、木を植えたりして回る。
- 8) 娘は若狭の空印寺で八百歳となって、入定する
（「事例1」の富山県の話にはこの部分は脱落している）。
- 9) 人々は娘のことを八百比丘尼と呼ぶ。

ただ、地方によって伝承の密度が異なり別なエピソードを加えたり、一部のエピソードだけが独立して伝えられているのは当然のことである。ここでと

りあえず、都道府県別に八百比丘尼伝承の有無を確認するため、一覧表を【表1】としてあげておく。

ここから分かるように八百比丘尼伝説は、北は東北地方から南は中国・四国地方まで存在が確認されており、延べ27都府県に及んでいるのである。まだ見つかっていないのは北海道と九州、沖縄であり、20道府県になる。したがって、八百比丘尼は国内の半数に近い地方で知られている伝説であるといえる。

続いて舞台を山陰に移して鳥取県米子市の事例を眺めておく。

【参考事例2】鳥取県米子市彦名の伝承

話し手 河場敏雄さん（1926年＝大正15＝生）

昔、粟島の里に、今の粟島神社のあたりに漁師がたくさんおって、そうして漁師が講でいいですか、集会をしたんだそうですね。そうしたらそのうちの一人がトイレに行きかけて、炊事場でえか、そこの料理場をのぞいたら、何か得体も知れず、魚とも動物とも分からんものを料理しとったって。それから、帰って、

「ここのおやじはたいへんなものを料理しちよるぞ。あんな料理が出たって、みんなが食べえじゃないぞ」てって、まあ、話しちよった。

あんのたま、その料理が出て、そいで食べえもんは食べて、食べ残しはまあ、家内の土産にてって包んで持ち帰ったと。

そいから、他のもんは、「あれは人魚だった、どうも」と。「あんなもん食べちゃあろくなもんはない」て、家へ持って帰らずに途中でみんな捨ててしまったら、一人のその酔っぱらった漁師さんが、捨てることを忘れて自分とこへ持って帰ったと。そうして、何か、戸棚なんかへ入れちよったら、それをその娘さんが、そのご馳走を取って食べてしまったと。

そうしたら、それが人魚の肉で、その食べた娘さんは、ずっと長生きして八百年まで長生きしたそう。そいで晩年は、あの粟島神社の洞穴に入って八百年も生き長らえたそう。そいでいわゆる八百比丘さんが、終生住んだというのはあの洞穴だという具合にわたしら聞いております。(1995年＝平成7＝11月18日・酒井収録)

米子市の話では、庚申講の名前がなく、娘が若狭へ行った件も話されていない。

2 八百比丘尼と千年比丘尼

ここで八百比丘尼伝説と瓜二つともいうべき千年比丘尼伝説について、少し述べておこう。内容的には同じような内容を持ちながら、ただ、八百年ではなく千年の齢を重ねるとしているところが異なり、そこから千年比丘尼と呼ばれているものも存在している。しかし、八百比丘尼とは違ってその分布範囲は狭く、西日本に限られている。府県でいえば京都を北限にして、島根、岡山にのみ認められる。参考までに次に島根県浜田市の例を紹介しておく。

【参考事例3】 島根県浜田市下府町の伝承

話し手 曾根辻清一さん(1917年＝大正6＝生)

昔の話ですけれどもおじいさんやおばあさんに聞きますと、千年比丘尼というものは、海に千年、川で千年育ったそうです。そうしてその人が大きくなったので、陣取って自分で穴を掘ってそこへ入っていたといひます。

その千年比丘尼とその家族は「池田」といい、場

所は下府地区の一番頭の方になり、「上の浜」というところ。そこには家がありましたが、今はもうよそに行かれてしまい、屋敷といっても残っていません。ただウド畑があるばかりです。

聞いたところによりますと、その人の父親は漁師でした。そして母親は百姓をしていました。それが醜い女の子を抱えていました。その女の子がひとりで人の中へ出るとみんなからからかわれるので、

「おまえは家の中へおれ」と言って、あまり外へ出さないようにしていました。そのようになったわけは次のようなことがあったからです。

ある日のこと。そこのお父さんが漁に出たまま二日経っても三日経っても帰って来ませんでした。

「なしてだろうか」と家の者が心配していました。

「お父さんはどがした。お父さんはどがした」とその子も言いますので、

「お父さんは旅行に出なっただ。すぐ帰んさるけえ」と言っていましたら、しばらく経って、それこそもう目の色を変えて父親が帰って来のだそうです。

それで、昔は猿股というものをばいてました。その猿股に紐を通していました。父親は家へ飛び込んですぐに戸をぴしゃっと立ててしまいました。女の子は父親に、

「お父さん、土産はなにか」と催促しましたが、

「土産なんかない。じつはこうこうだ」と父親は家の者に向かって話しはじめました。

「三日ほどきれいなところへ連れて行かれてご馳走になった。そうして、歌や踊りや一生懸命にうたったり踊ったりするのを見てきたけど、ふらっとお通じに行ったら、縁の所で人間をおろして刺身にしよう。これは食われん、と思ったが(…これが人魚であったのだけれど…)、その肉を食わしてもらうのだと思ったところを、そこの人に見つかってしまったので、いやになって逃げてきたら、『あんだ、見たかな』言うて、その五寸角ぐらいに切った肉をほおったんだ。そうしたら後ろ側のこの猿股の紐の間に入ってしまった、入とったそのまんまかけて

きたんだ。そいで陸へ上がって家へ飛び込んで戸を閉めたところだ」。

父親はそうのように言っただけでその猿股を脱いだら、上からストツとその人魚の肉が落ちました。

そうすると、その娘が、
「これが土産か」と言って、その肉にかぶりついてペロペロッと食ってしまいました。

そうすると、見る見るうちにとてもたくましい女の子になってしまいました。

それで、家の人たちは、
「こんな娘を人前へ出したら、もういよいよ世間がどうもならんから」と考えたので、夜、今の穴へ向けて連れて行きました。そうして、外へは出られないようにしてしまっただけで、毎日ご飯を炊いて持って行ったり、こつこつ煮物を作って持って行ったり、漬物を持って行ったりして育てていったということです。それが後にいう「千年比丘尼」だったということでもあります。

そして娘が食べた肉は人魚の肉であったということ、だれということなく言うようになりました。それも生で食べたところ、見る見るうちに男に勝るようなたくましい女の子になってしまったもので、これでは、人も嫁にはもらおうと思わないし、また、世間からみてもまたあまり歓迎されないということで、その穴へ連れてって中で生活をさせていたということ、わたしたちのおじいさんやおばあさんから聞きましたがねえ。

いまごろ想像すれば、千年も二千年も生きた者はおらんのだから、「千年比丘尼」といえば長いこと生きていたという意味で言うんだと思いますが、そういう伝説がありましたねえ。

(1993年＝平成5＝7月22日・酒井収録)

比較してみれば分かるように、「八百」と「千年」の違いがあるだけで、この浜田市の伝説の筋書きは、先に挙げた米子市のものと変わらない。そしてこの方も、特に比丘尼が若狭へ去ったとか、木を植えたなどの事績については述べられていない。

また、この千年比丘尼伝説と八百比丘尼伝説の関

連についてであるが、千年比丘尼伝説は、島根県の他には京都府と岡山県のわずかに三府県にしか認められないというのは、分布範囲の狭さから考えて、これは元々八百比丘尼伝説として伝えられていたものが、年齢を二百歳プラスした形で変化し、新たに伝承を始めたものではないかと思われる。したがって、わたしは千年比丘尼伝説は八百比丘尼伝説の亜流として位置づけられるのではなかろうかと考えている。

続いて、伝承の状況をモチーフに分けた都道府県別の一覧表を【表2】としてあげておく。

こうして眺めてみると、そのモチーフの中には、石川県輪島市縄又町や三重県安芸郡安濃町、島根県江津市都野津町の「金鶏伝説」や石川県輪島市縄又町や香川県三豊郡高瀬町の「貸し椀伝説」と結びついているものもある。本来これらの二つの説話は、八百比丘尼関係とは別個の伝承として親しまれているが、比丘尼に対する敬愛の情がいつしか人々に、別系統の伝説を比丘尼伝説に結びつけさせたものと考えられる。次に誕生地としては、自他共に認めている福井県小浜市の他、愛知県一宮市、産湯の池のある埼玉県秩父郡皆野町、生家のある新潟県佐渡郡羽茂町。当地に比丘尼の墓があるという千葉県海上郡椎栄村。入定地としての愛知県犬山市、三重県安芸郡安濃町、島根県益田市が認められる。また、巡行した各地で松や杉、樟、椿、榎などの植物を植え、それが今日まで根づいているとしている場合も多い。さらに八百歳という年齢を証明するように、福井県今立郡池田町では、八百比丘尼は源平盛衰の様子や源義経を知っていると伝えている。このように八百比丘尼は数多くの事績を示している。そしてこれのことから、多くの人々にいかに愛されてきたかということがわかるようである。

3 八百比丘尼伝説が支持された理由

八百比丘尼伝説の根幹をなしているモチーフをもう一度取り上げて、この伝説が広く人々に指示され

【表2】都道府県別モチーフ関係一覧表

地 名		八百 比丘 尼	千 年 比 丘 尼	人 魚 を 食 べ る	食べた場所				若狭の国に 行くなど	尼がした事		メ モ
					竜 宮	庚 申 講	頼 母 子 講	そ の 他		植 林	そ の 他 の	
北 海 道	_____	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
東 北	青 森	_____	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	岩 手	_____	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	宮 城	_____	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	秋 田	_____	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	山 形	_____	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	福 島	9 会津地方	○	—	貝	—	○	—	○	—	—	
関 東	茨 木	_____	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	栃 木	85 <small>かみづみ</small> 上都賀郡西方町	○	—	—	—	—	—	○	—	—	八百比丘尼堂他
	群 馬	17 利根郡月夜野町石倉	○	—	○	○	—	—	空	松	橋	
		18 利根郡新治村羽場	○	—	○	○	—	—	—	—	—	
	埼 玉	19 八潮市中馬場	○	—	○	—	—	○	—	—	—	山王塚
		84 秩父郡皆野町金沢	○	—	△	—	—	—	—	—	—	尼が住んだ穴
		23 東松山市正代	○	—	—	—	—	—	—	—	—	
		24 大宮市染谷	○	—	—	—	—	—	—	—	—	安養の地
		25 大宮市櫛引	○	—	—	—	—	—	—	—	—	二つの塚他
		26 大宮市桜木町中小村田	○	—	—	—	—	—	—	松	—	
		27 大宮市植竹町	○	—	—	—	—	—	—	松	—	小祠
		28 岩槻市黒谷	○	—	—	—	—	—	—	松	—	貝塚
		29 浦和市大久保領家	○	—	—	—	—	—	—	椿	—	
		30 浦和市大牧	○	—	—	—	—	—	—	樺	—	
		31 川口市峰	○	—	—	—	—	—	—	銀杏	—	
		32 川口市前野宿	○	—	—	—	—	—	—	—	—	比丘尼堂
		34 秩父郡皆野町大淵	○	—	—	—	—	—	—	—	—	産湯の水
	千 葉	20 松戸市上本郷	○	—	—	—	—	—	—	—	—	
		21 銚子市猿田	○	—	—	—	—	—	—	—	—	
		22 八日市場市小泉	○	—	—	—	—	—	—	—	—	
		95 海上郡椎柴村	○	—	—	—	—	—	○	—	—	比丘杉（墓標）
	東 京	33 北区上中村	○	—	—	—	—	—	—	—	庚申	千手観世音奉安
		98 青梅市塩舟	○	—	—	—	—	—	○	—	碑 寺の 開祖	
	神奈川	99 鎌倉市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		100 足柄郡箱根	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石塔
中 部	新 潟	10 佐渡郡羽茂町	○	—	○	◎	△	—	○	—	—	生家
		11 三島郡寺泊町	○	—	○	—	—	社	○	—	—	諸国巡業
		12 三島郡寺泊町	○	—	—	—	—	—	—	—	—	同上・絵図

中	富 山	13	三島郡寺泊町	○	—	△	—	—	—	—	空	松	—	巡業
		14	糸魚川市旧下早川村	○	—	○	△	—	—	—	空	—	—	巡業・石碑
		15	糸魚川市旧今井村須沢	○	—	魚	—	—	—	婚	○	—	—	窪み穴
		16	糸魚川市旧浦本村鬼伏	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	松の根に足跡
		35	中新川郡立山町下田	○	—	○	—	—	—	講	○	松	—	津波の予告
	石 川	36	黒部市園家	○	—	○	—	—	—	—	—	—	予告	
		37	下新川郡入善町東狐	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		40	中新川郡上市町若杉	○	—	○	○	—	—	—	—	杉	—	
		39	黒部市玉椿	○	—	—	—	—	—	狐亭	—	—	—	
	石 川	86	鳳至門前町	○	—	—	—	—	—	—	—	杉	—	洞穴・貨枕伝説 切っ木を焼く話 天気予報
		38	輪島市縄又町	○	—	○	—	—	○	—	○	松	椿	
		41	輪島市縄又町	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		42	輪島市大沢	○	—	—	—	—	—	—	—	—	予報	
		43	輪島市美谷町	白	—	—	—	—	—	—	—	黒松	—	
	福 井	44	輪島市	白	—	△	—	—	—	寺参	—	—	—	白比丘尼
		45	珠洲市宝立町春日野	○	—	—	—	—	—	—	○	杉	—	槻木には榎の実 白比丘尼の墓
		46	珠洲市上戸町寺社	○	—	—	—	—	—	—	○	逆杉	—	
		47	鳳至郡穴水町	○	—	—	—	—	—	—	○	槻杉	—	
		48	鳳至郡柳田村神和住	白	—	—	—	—	○	—	○	—	長寿村	
		53	羽咋郡	○	—	—	—	—	—	—	—	椿原	—	
		87	小浜市	○	—	—	—	—	—	—	—	椿	—	生誕地＝屋敷跡
		88	遠敷郡上中町	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	衣がけのタモ他
		89	遠敷郡名田庄村	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	尼来峠
		49	今立郡池田町池田	○	—	○	—	—	—	—	○	椿	—	源平盛衰の様子を知る
部	山 梨	50	小浜市	○	—	△	—	—	—	海岸	—	—	—	道満の羽茂長者 三日三晩舟を漕ぐ
		50-B	小浜市	○	—	○	—	—	—	—	—	—	—	
		51	小浜市東勢	○	—	—	—	—	—	島	—	—	—	
		52	遠敷郡上中町	○	—	—	—	—	—	—	—	タモの木	—	
		101	大月市賑岡町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	長 野	102	上水内郡戸隠村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		90	岐阜県各務原市	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	八百比丘尼石碑
		58	郡上郡八幡町	比	—	—	—	—	—	—	—	逆杉	—	石を運んだ
		59	養老郡養老町勢至	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	静 岡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	愛 知	54	春日井市白山町円福寺	○	—	○	—	○	—	—	○	—	—	八百比丘尼木像
		97	春日井市高蔵寺町白山	○	—	○	—	—	—	祭	○	—	長寿	他
		96	犬山市	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	比丘尼谷，祠堂
		55	犬山市五郎丸	○	—	—	—	—	—	—	—	△椿	—	他
		56	知多市（旧旭村粕谷）	○	—	—	—	—	—	—	—	椿	—	入定した万福寺
		57	一宮市（旧浅井郡尾関）	○	—	—	—	—	—	—	—	—	空印寺	木花咲耶姫命が夢枕 椿は不老長寿の薬 八百姫は当地出身，
		91	あけ あのうちよう 安芸安濃町	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	死所＝浄明寺跡
近 畿	三 重	64	安芸郡安濃町草生	○	—	○	—	—	—	無	○	—	—	金鶏伝説
		65	員弁郡藤原町	白	—	—	—	—	—	尽	—	—	—	古井戸がある
		66	鈴鹿市平野町	○	—	—	—	—	—	—	○	—	—	八百比丘尼塚
		67	松阪市佐久米町	○	—	—	—	—	—	—	○	—	—	黄金はまだ若い

八百比丘尼伝説

近畿		85 鈴鹿郡関町	○	—	—	—	—	—	—	○	—	産を 助く	白比丘尼が八百比丘 尼
	滋賀	———	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	京都	92 船井郡日吉町	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	玉岩地藏尊
		1 丹後町乗原	—	○	○	—	○	—	—	—	松	石	
		2 丹後町筆石	—	○	—	—	—	—	—	—	松	—	
		60 丹後町袖志・伊根	○	—	—	—	—	—	—	—	—	天気 予報	比丘尼埋葬地
		61 宮津市上世屋	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		62 舞鶴市折原	○	—	○	—	—	—	—	○	—	—	八百比丘尼の塔
		63 宮津市小田宿野	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	大阪	———	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
中国	兵庫	103 神崎郡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	比丘尼池
	奈良	———	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	和歌山	68 那賀郡貴志川町丸栖	○	—	—	—	○	—	女性	○	—	—	尼の渚
		69 日高郡川辺町	○	—	—	—	—	—	—	○	—	—	諸国巡行・三度の水禍
	鳥取	70 米子市粟島	○	—	○	△	—	—	竜宮性	—	—	—	竜宮講
		71 気高郡鹿野町	○	—	○	—	—	—	—	○	—	—	八百比丘尼岩屋
		72 倉吉市別所出村の穴田	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		77 鳥取市竹ヶ渚	○	—	○	—	—	—	—	—	—	—	
		78 鳥取市面影山	○	—	○	—	—	—	—	—	—	—	八百比丘尼屋敷
	島根	6 江津市都野津町	—	○	○	○	—	—	—	○	—	—	金鶏伝説
四国		82 安来市	○	—	—	—	—	—	—	—	—	地蔵	地蔵菩薩作
		7 浜田市唐鐘町	—	○	○	○	—	—	—	○	—	—	石を投げる
		8 那賀郡金城町天頂巖	—	○	○	—	—	—	—	—	榎	—	
		93 島根県隠岐郡西郷町	○	—	—	—	—	—	—	—	杉	—	
		73 隠岐郡西郷町	○	—	—	—	—	—	—	—	杉	—	総社杉＝八百杉
		79 隠岐郡西郷町下西	○	—	—	—	—	—	—	—	杉	—	蛭子神社＝同右
		74 隠岐郡西郷町岬町	○	—	—	—	—	—	—	—	杉	—	
		94 隠岐郡五箇村	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	墓・神社
		85 隠岐郡五箇村	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	墓・神社
		75 隠岐郡五箇村	○	—	—	—	—	—	—	○	松原	—	柿本躬都良他
九州		76 隠岐郡都万村屋那	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		83 益田市	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	墓
	岡山	3 浅口郡金光町津熊	—	○	○	—	—	—	○	—	—	—	
		4 勝田郡奈義町	—	—	貝	—	—	—	—	—	—	—	
	広島	5 深安郡神辺町中条	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	
	山口	———	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	徳島	———	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	香川	81 三豊郡高瀬町	○	—	—	—	—	—	—	○	—	—	貸し唄伝説
	愛媛	———	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	高知	80 須崎市多ノ郷字大坊	○	—	○	—	—	—	—	○	—	石塔 奉納	諸国の寺社参拝
九州	福岡	104 北九州市若松区乙丸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	大貝（庄浦の仙女）
		105 山門郡瀬高町本吉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	舞鶴城
	佐賀	———	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

九州	長 崎	_____	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	熊 本	106 飽託郡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	尼公塚
	大 分	_____	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	宮 崎	_____	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	鹿児島	_____	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
沖 縄	_____	_____	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合 計			93	6	34	8	5	3	13	32	30	13	

※ 八百比丘尼の欄中、「白」は「白比丘尼」、「比」は「比丘尼」のことだが、内容から推察して、八百比丘尼に分類しておいてよいと思われるものである。また「空」は「若狭にある空印寺」のこと。他は省略。

※ 地名の数字は32ページからの参考資料の数字1～106に対応する。

【参考文献】「八百比丘尼関係市町村の横顔」・インターネットホームページ・『日本伝説大系』（みずうみ書房）・『日本伝説名彙』（日本放送出版協会）・『伝説資料集八百比丘尼』（小浜市政策広報課）

ている理由を考えておきたい。唯一無二の理由は八百歳まで長生きしたという点であろう。

この地上に生命を持って生まれてきた生物は、例外なく死ぬ運命を背負っている。万物の霊長たる人類も同様である。すなわち、地上に君臨するどのような権力者であっても、この運命から逃れることはできない。人々はそれ故にこそ、まず例外なく可能であれば不老不死でありたいという叶わぬ願いを持つのではなかろうか。それが不可能であることが分かっているからこそ、それならば少しでも長生きしたいという願いが生じるのも無理からぬことであろう。そのような背景の中から出現してきたのがこの八百比丘尼伝説といえるのではなかろうか。人類の寿命は一般的には百歳を越えることは、今日においてすら希有のことである。したがって、八百歳というのは、単に頭で描いた理想的年齢に過ぎない。そこで八百歳の年齢を持った人物を登場させるためには、人々に納得させるためへのそれなりの舞台装置を必要とする。こうして考えられたのが次のようなものであろう。箇条書きにしながら説明を試みることにして行きたい。

1) 長寿を与えるものとして、昔から人魚の肉を食べればよいとされていたようである。これは想像上の生物ではあるが、海に住むものとして考えられている。わが国の古代信仰からいえば、海は祖霊の住む常世の国に続いているとされている。こ

こはいわゆるパラダイスであり、古くからその存在が認められる昔話の主人公、浦島太郎の出かけた竜宮城のあるのも海である。当然、そこは常世であった。したがって、浦島太郎はしばらく滞在したつもりだったのが、陸上の現世に帰ってみれば、数百年も経過していたのであり、土産にもらった玉手箱には永遠の世界である常世の時間を現世のそれに還元し直す薬が入っていたのである。そのため不注意に玉手箱を開けた浦島太郎は、その還元の効果によって、たちまち老人になってしまうのであった。そういうことであるから、陸の生物とは違った海の霊妙な生物、人魚には長寿のパワーが秘められており、それを食べることによって長寿が授けられることになるのであろう。

- 2) 人魚の肉を食べて長寿を授かった八百比丘尼の父親を漁師としているが、常世の海に関わる場所を職業としている点で、やはり人魚を得るのにふさわしい環境にあるといえる。
- 3) また、実際に長寿を得るのは父親ではなく娘であるとする点であるが、これは未婚の女性を介して神の託宣を伝えるという古来からのしきたりを反映していると思われる。
- 4) 八百歳の年齢を得た主人公は、年相応の風貌にならないことを悲しみ、仏教に帰依して比丘尼となる。つまり、このことは仏教信仰に関連を持つ

姿を示している。けれども、それ以外の道具立てでは、仏教との関わりよりも古くからの祖霊信仰を踏まえたものとなっている。ここから信仰の点を捉えてみれば仏教信仰と祖霊信仰の二重構造を併存して物語が成立しているといいながらも、その基盤にはやはり古代からの祖霊信仰が置かれている。

5) 人魚の肉を得るのは、竜宮界へ招かれ、そこで接待されたおとりとする話が点々と存在している(群馬・新潟・富山・島根など8事例が認められる)。この竜宮界そのものの意味については、1の項目のところで述べたとおりである。

6) 人魚の肉を得るきっかけは、竜宮界へ招かれたりする他に庚申講に参加したおりに出された料理にある場合も見られる(群馬・新潟・愛知・京都・和歌山などの5事例)。この庚申講はいうまでもなく庚申の神を祭るために行われるが、この講は酒食を供し、夜を徹して語り合わなければならないとされている。そして時代の推移と共に庚申信仰と道祖神信仰が習合してきているが、そのことは同時に農業信仰とのつながりをも意味しているわけで、そこからこの講はかつてわが国を支えた農業経済とのかかわりを持っているといえる。

このように注目しておきたいことは、人魚の肉を得るきっかけは漁民である父親であり、庚申の神が農民の神とされていることである。すなわち、この信仰が漁業と農業に密接な関連を持っていることを、これは間接的に証明していると考えられることである。

7) 次に各地の伝承によく見られる八百比丘尼が、若狭の国で入定するとされていることについて、考察しておこう。地理学的に眺めて、隠岐島近辺の海で遭難した場合、よく若狭の国に漂着することが多いという。そのような背景を踏まえながらも、八百比丘尼が八百歳になってもなおかつ若い娘の姿のままであったという伝承と併せ考えると、この「若狭」は同じ発音である「若さ」に掛

けてこの伝承を収めようとする、わが国の人々のユーモアの精神のなせる結果ではなかろうかと思わざるを得ない。あまり大げさにユーモアを表さないわが国の傾向ではあるものの、けっこう心の中には、このようにユーモアを解する豊かな心情が流れているのではなかろうか。ただ、小浜市にある空印寺がその重要な場所になっている点については、まだその理由がよくは分からない。

8) 念のため、多くの伝承において八百比丘尼の入定地とされる福井県小浜市にある空印寺を説明する前に、まず小浜市について眺めておこう。

ここは若狭国国定公園の中央にあり、そこから海のある奈良ともいわれている。132ある寺の数は人口比では国内一であり、古くは京都や奈良などへの交易要所として栄えてきた。東大寺二月堂のお水は、ここから送られるとされており、毎年3月3日には「お水送り」の神事が続けられている。

さて、いいいよ空印寺の説明に入る。ここは小浜藩主、酒井家の菩提寺であり、元々は1522年(大永2)、若狭の守護武田元光以降、武田氏の守護館であったが、1600年=慶長5=に京極高次公が雲浜に築城して以後、その子忠高公により館跡に父・高次を祀る泰雲寺が建立された。この寺は1634年(寛永11)酒井忠勝が父・忠利を祀り、泰雲山健康寺となり、その子・忠直公が忠勝の法号、空印を寺名とし、酒井家の菩提寺となったものである。境内に属する山麓には、人魚の肉を食べたために八百歳まで生き続けた「八百比丘尼」の入定洞がある。これにちなみ、小浜湾を一望する日吉の海岸には、コペンハーゲンにあるような人魚の像が設けられている。さらに空印寺には、内容の異なる「八百姫物語」も伝えられており、これをもって八百比丘尼と称することがあるが、これについては省略する。

ともかく、若狭の国と空印寺がなぜ八百比丘尼伝承の基盤になったのかを考えた場合、先の掛詞に見られる日本人のユーモアの精神と盛んな仏教

信仰が、長寿を願う人々に仏教に帰依することによって、あるいは長寿を与えられるかも知れないという希望を抱かせて、その事例としての八百歳の長寿を保った比丘尼の伝説の本拠地を作り上げていったのではなからうか。

以上、眺めてきたような背景があることによって、この伝説は日本人の共感を得て伝承を続けてきたのであろう。

4 八百比丘尼伝説と隠岐島の関連伝説のこと

先に挙げたような八百比丘尼の一生を伝える話の他に、生涯の一部のエピソードを残したものも各地に伝えられていることは先にも少し触れたが、念のために島根県の離島、隠岐島に絞って文献による事例を紹介してみるのも、他の地方のものは同様に解釈していただきたい。

さて、隠岐島では島前地方では西ノ島町の1町。島後地方では西郷町、五箇村、都万村の3町村。合わせて4町村にわたって八百比丘尼伝説が残されているが、内容的には以下の3種類に分けられる。

【参考事例4】 総社の八百杉

(島根県隠岐郡西郷町)

西郷町の下西に「総社」の玉若酢命神社が鎮座する。この袖社の随神門を入った右側には「八百杉」あるいは「総社杉」といって、目通り周囲約10メートル、高さ30メートルの大杉がある。

これは昔、若狭の国から人魚の肉を食べたという比丘尼がやって来て、この神社に参詣し、後代の形見にと植えた杉である。彼女は、「八百年経ったら、またここに来よう」と言ったので、世に八百比丘尼といわれたが、杉の方もいつしか「八百杉」というようになった。

ところが、いつのころからか、この「八百杉」の根本の洞穴に小さな蛇が棲みついた。あたかも杉の主のごとく、穴の中でいつもとぐろを巻いていたの

で、体が大きくなり、洞穴の口にも苔が生えて出られなくなった。

今でも、風の少ない暖かな日には、木の中から大蛇の大いびきが聞こえてくる。そばに足音がすると、それが止むともいわれている。(野津 龍『隠岐島の伝説』・鳥取大学教育学部国文学第二研究室発行より)

八百比丘尼が杉を植えて去ったものが、玉若酢命神社の境内にあり、さらにその杉の根本の洞穴に蛇が住みついたが、いつの間にかからだが大きくなりすぎて、そこから出られなくなり、今でもそのまま生きているとしている。蛇の住みついたとする事例は他の地方の類話には見られないが、八百比丘尼が各地を回りながら、記念に杉や松などの植物を植えたりしたとする事例は、けっこう多い。つまり、この比丘尼は植林を行ったということから、これは農業神としての姿を示唆しているものとは考えられないであろうか。子孫の住む現世が幸せになるようし向ける祖霊の役割を比丘尼は果たしていることに注目しておきたい。

【参考事例5】 姪子神社の八百杉と泉

(島根県隠岐郡西郷町、五箇村、西ノ島町)

西郷町岬町中ノ津の海岸近くに、姪子神社という小祠がある。そこから10メートルばかり南に根元から二つに分かれた杉があるが、大きい方は直径1メートルもあろうか、これを昔から八百比丘尼が植えた杉といって「八百杉」と称している。

またこの杉の下には、年中清水の涸れない泉があつて、古く伊勢参宮をする者は、必ずここに立ち寄ってこの水を汲んだという。海の近くにあつてもこのように水が豊富なため、この近辺の田んぼは干ばつの年によく出来、干ばつでないときにはあまり出来なかったという。

なお、姪子神社の「八百杉」以外でも、有名な総社の「八百杉」がある。さらに、五箇村郡の水若酢神社、西ノ島町美田の大山神社、同じく西ノ島町美田の焼火神社の境内にも、それぞれ八百比丘尼手植

えの「八百杉」があったという。(野津 龍『隠岐島の伝説』・鳥取大学教育学部国文学第二研究室発行より)

蛭子神社でも比丘尼は杉を植えている。そしてその杉の下は年中涸れないというおまけまでついている。ここから比丘尼の水神的な役割を認めることが可能となってくる。

【参考事例6】 屋那の松原

(島根県隠岐郡都万村・五箇村)

昔、島後の五箇村に八百比丘尼という大層長命な尼さんがいた。彼女は、都万村都万の釜屋の海岸屋那にやって来て、松を植えた。一夜の間に必ず植え終わる予定であったが、途中、鶏の鳴き声を上手にまねする男がいて、戯れに、「コケコッコー」と鳴いたので、完成しないで中止した。その松が現在の「屋那の松原」であり、残りの松苗は都万村那久に投げ捨てられたので、これが根づいて「尼の投げ松」といった。

この八百比丘尼は、後に若狭の国に行って亡くなったという。(野津 龍『隠岐島の伝説』・鳥取大学教育学部国文学第二研究室発行より)

ここでは八百比丘尼は前の事例の杉に代わって松を植えている。解釈は前と同様に考えられる。また、一夜のうちに松を植えようとしたけれども、鶏の鳴き声を真似た者のために、比丘尼は夜が明けたかと思ってその作業を中断してしまったとしているが、各地の類話ではこのいたずら者をアマノジャク(天の邪鬼)とする場合がほとんどである点から推察して、『隠岐島の伝説』の著者である野津龍氏の聞き書きも、別の話者から聞かれれば、その正体はアマノジャクであるとの結果になったことも、じゅうぶんに予想される。筆者は島前地方でアマノジャクが神様の作業をいたずらのため中断させたという類話をいくつか聞いているのである。

この問題の詮索はこのくらいにしておこう。要するにアマノジャクの登場する話になってくるのは、他の地方では例がなく、そこから見てもこれは元来

が別個の伝説であったものが、八百比丘尼伝説に併合されてできたものと考えられるのである。

大切なのは、この項で眺めたこれらの事例は、初めに述べておいたように八百比丘尼の一生からすれば、その一部分に当たるエピソードが独立して伝えられているということと、現世をよくするために植林を続けたり、涸れない泉を提供して、子孫が農業用水などに困らないようにしてくれている点である。つまり、時が来て子孫を訪ね幸せを授ける訪問神としての性格を示していることである。

ただ、比丘尼といえど、仏教信仰における女性の僧侶をいうが、八百比丘尼の性格を眺めれば、仏教とは異なり、昔からわが国に存在している神道の要素を備えた祖霊信仰そのものを示している。先にも述べたように諸国を巡行して子孫に幸を与えるまれ人でもあり、農業や漁業、あるいは森林経営などの生産的な分野での繁栄をもたらす神としての姿を持っている。したがって八百比丘尼伝説は、神道と仏教が併合した姿で成立していると結論づけるべきだと考えられる。

5 八百比丘尼伝説と浦島太郎説話

—終わりに代えて

ところで、これだけ広く伝承されている八百比丘尼伝説である。これはいうまでもなく女性を主人公としているが、これと相対するように男性を主人公としたよく似た昔話に浦島太郎がある。この方は古くには八世紀後半に成立した国民的歌集『万葉集』にも登場している。けれども八百比丘尼については、残念ながらこれには見当たらない。平安後期の『今昔物語集』ではどうかと探してみたが、やはり出ていない。筆者の探したものでは文献として遡ることのできる一番古いものでは、寛永年間(1624～1643)に福井県小浜市の「八百比丘尼の窩」について書かれたとされる桜井曲全子の『若狭国伝記』がある。続いて延宝年間(1673～1680)の成立とされる牧田近俊『若狭郡県志』といったところである。

【表3】八百比丘尼伝説と浦島太郎説話の比較一覧表

項 目	八百比丘尼（女性）	浦島太郎（男性）
文 献 の 初 見	17世紀	8世紀
主 人 公	漁師の娘	漁師である浦島太郎
話 の 発 端	漁師が講を行う	浦島太郎がいじめられている亀を助ける
行ったところ	竜宮（庚申講）	竜宮
もらったもの	人魚（長寿薬）	玉手箱（生命の時間の換算薬）
行ったこと	諸国を巡行し植樹を行う	
そ の 他	若狭の空印寺との関係が深い… …八百比丘尼は「まれ人」である （女神＝農業神）	

したがって、八百比丘尼伝説は17世紀前半になって初めて文献に登場しているものであり、8世紀に出現している浦島太郎説話から見れば約900年ほど後になっている。両者の関係を表にして比較しておく。

ともかく、八百比丘尼伝説は浦島太郎説話ほどには広い分布は持たないものの、それでもわが国の東北地方から中国・四国地方にわたって人々に親しまれている。古くからの農業・漁業信仰を踏まえ、八百比丘尼がまれ人的な存在として、祖霊信仰と仏教

信仰をミックスさせながら、長寿を願う人々の期待から、若狭の国とのつながりを持たせ、このような伝承を形成して発展させていったものであろう。

そして山陰各地に残る同種の話は、ほぼ全体像の姿として米子市彦名地区の「粟島の八百比丘尼」や浜田市唐鐘地区の「千年比丘尼」の伝説として伝えられ、部分的なものの発達した話が益田市や隠岐島などに残されていると結論づけてよいと思われる。

以上

【付・八百比丘尼伝説・参考資料】

千年比丘尼

『日本伝説大成』（みずうみ書房）○の数字は巻数を示す。

- | | | | |
|---|--------------------------------------|---|---|
| ⑧ | 魚の肉を食べた。 | 6 | 江津市都野津町・若狭の国で死ぬ・「朝日さし夕日のあたるところに黄金千両が埋めてある」。 |
| 1 | 京都府丹後町乗原・庚申待ちで魚の肉を食べた。石で道を固める・松を植える。 | 4 | 岡山県勝田郡奈義町（貝を食べた。千年比丘尼とは直接言わない）。 |
| 2 | 京都府丹後町筆石・松を植える。 | 5 | 広島県深安郡神辺町中条（人魚の肉を食べた。千年比丘尼とは直接言われない）。 |
| ⑩ | | ⑪ | |
| 3 | 岡山県浅口郡金光町津熊・人 | 6 | 江津市都野津町・若狭の国で死ぬ・「朝日さし夕日のあたるところに黄金千両が埋めてある」。 |
| | | 7 | 浜田市唐鐘町・若狭の国で死んだ・巨岩を運ぶ。 |
| | | 8 | 那賀郡金城町天頂畷・榎を植えた。 |

八百比丘尼

『日本伝説大成』（みずうみ書房）○の数字は巻数を示す。他の数字は掲載ページを示す。

- ③
- 9 福島県会津地方・若狭小浜より老比丘尼は九穴の貝を食べて八百比丘尼となる。
- 10 新潟県佐渡郡羽茂町・羽茂町大石地区の娘・後、若狭へ行って八百比丘尼となる。
- 11 新潟県三島郡寺泊町・金五郎の娘・後、若狭へ行って八百比丘尼となる。
- 12 新潟県三島郡寺泊町・野積浜の高津某の娘・後、若狭へ行って八百比丘尼となる。
- 13 新潟県三島郡寺泊町・同上・家を出るとき八百比丘尼の松を植える、若狭へ行って八百比丘尼となる。
- 14 新潟県糸魚川市旧下早川村字中谷根・龍神に招かれた主人の土産・若狭へ行って八百比丘尼となる。
- 15 新潟県糸魚川市旧今井村須沢・妻が婚礼で魚を食う・（八百はない）比丘尼となる。
- 16 新潟県糸魚川市旧浦本村鬼伏の海岸・二本松の根元の石に八百比丘尼の足跡。
- ④
- 17 群馬県利根郡月夜野町石倉・竜宮で庚申待ちの仲間清次の娘・八百比丘尼。方々に松を植えたり橋を架ける→若狭の空印寺で死ぬ。八百比丘尼の屋敷跡がある。
- 18 群馬県利根郡新治村羽場・庚申講の土産・八百比丘尼＝、ケヤキのうろの中に住んでいた。
- ⑤
- 19 埼玉県八潮市中馬場・山王塚＝比丘尼の供養。上総からの行商人の家へ招かれ…娘→若狭へ。
- 20 千葉県松戸市上本郷・風早神社前の六軒新田の六人が庚申講に呼ばれて…八百比丘尼は若狭へ。
- 21 千葉県銚子市猿田・若狭の国の八百比丘尼は高橋長者の娘。土産の肉を食べ不老不死となり若狭へ。
- 22 千葉県八日市場市小泉・八百姫が龍神から竜宮城へ呼ばれて…庚申講に肉を食べる。姫八百比丘尼となり若狭へ。
- 84 埼玉県秩父郡皆野町金沢・国神の大淵の寺に八百比丘尼が住んだ穴がある。
- 23 埼玉県東松山市正代・若狭の八百比丘尼が泥海を舟に乗って東崎観音まで来たのが一番愉快、と語る。
- 24 埼玉県大宮市染谷・染谷のあにじ（安養寺）は八百比丘尼安養の所という。
- 25 埼玉県大宮市薮引・農業機械化研究所内にある二つの塚は八百比丘の遺跡という。
- 26 埼玉県大宮市桜木町・中小村田（桜木町四丁目）の板間家の二斗ばりの臼は八百姫手植えの松で作った。
- 27 埼玉県大宮市植竹町・八百比丘尼が植えた松「ビャクニンマツ」があったという。
- 28 埼玉県岩槻市黒谷・八百比丘尼の貝塚があった。尼は越後で死んだ。若狭生まれの漁師が黒谷に住んでいた。その娘が八百比丘尼である。比丘尼はここに五十年いて、宮代町へ移ったという。
- 29 埼玉県浦和市大久保領家・鎮守山王社の大樫は八百比丘尼が植えたもの。
- 30 埼玉県川口市・大牧の多宝寺には八百比丘尼がいたという。
- 31 埼玉県川口市峰の八幡宮の境内の銀杏の古木は、若狭の八百比丘尼が置き忘れた杖の根づいたもの。
- 32 埼玉県川口市前野宿・八百比丘尼が住んだ比丘尼堂がある。峰には比丘尼が植えた樁がある。
- 33 東京都北区・上中村に庚申の碑三本があり、うち古い一本は八百比丘尼が建てた。低地の貝塚のある一帯を八百比丘尼の屋敷という。
- 34 埼玉県秩父郡皆野町大淵・八百比丘尼の廟があった。
- ⑥
- 35 富山県中新川郡立山町下田・四郎兵衛が某講で女にもらった土産の人魚の肉を娘が食べた。

- 白比丘尼といわれる。下男に顔を見られたので、白山社に一本杉を植えて八百比丘尼となって若狭へ行った。近くの高野、野町の神明社の杉もこの比丘尼が植えた。
- 36 富山県黒部市園家・村一番の物知り婆が星の異常を見つけ、津波を予報したが、相手にされない。結局一人生き残って八百比丘尼になり、若狭へ行った。
- 37 富山県下新川郡入善町東狐の善称寺園家にあったとき、寺の池は竜宮に通ずるとされた。寺の客の接待役の上清の爺がもらった土産の人魚の肉を婆が食べ八百比丘尼となった。これが大津波の予報をしたお虎婆さんという。
- 38 石川県輪島市縄又町・貉が頼母子講をやり、そこでもらった土産の肉を十八歳の娘が食べて白比丘尼となり、更に八百比丘尼となった。諸国を巡って松を植えた。鳳至の宮の松も「比丘尼の松」という。後、若狭へ行った
- 39 富山県黒部市玉椿・村長が越後の明光山の三越左衛門という千年経った狐に会う。狐の建てた亭の祝いで人魚に肉が出た。家の娘が知らずに食べて八百比丘尼になった。(['越中志微'])
- 39 富山県黒部市玉椿・村長が越後の明光山の三越左衛門という千年経った狐に会う。狐の建てた亭の祝いで人魚に肉が出た。家の娘が知らずに食べて八百比丘尼になった。
- 40 富山県中新川郡上市町若杉・孝徳天皇のころ。若狭のお姫様が白子だったので尼となった。龍神から不老不死の薬をもらい、八百歳まで生きた。若杉の大樺の下で弁当を食べ、杉箸を挿したら芽を吹いて逆さ杉になった。
- 41 石川県輪島市縄又町・八百比丘尼が縄又を出るとき、「この木だけは切るな」と言い残したが、村人が大枝が広がると田畑の耕作ができぬ。風が吹くと地滑りのおそれがある」と切った。木こりが切っても切れない。切った木をすべて燃やした。その後、縄又の地滑りはひどくなり、続いている。ここで八百比丘尼が生まれ、近くの若狭（門前町浦上）で住んだという。
- 42 石川県輪島市大沢・八百比丘尼が七日先まで天気を予報した。若狭の漁師が向こうへ連れてきて占わせたが、「土地が違い七つ島が見えないから天気が分からない」と言った。
- 43 石川県輪島市美谷町・美谷の宮の奥に白比丘尼が植えた黒松がある。
- 44 石川県輪島市・縄又のイカザエモンという信心深い男が輪島へ寺参りに行ったら、大沢の男と一緒に、一月後、その家へ呼ばれる。男は腰から上が貉の妻の人魚を料理していたので食べなかったが、娘が食べて白比丘尼になった。若狭から「若死にするので来てほしい」と乞われて行き、八百年も長生きした。
- 45 石川県珠洲市宝立町春日野・高井の路傍の地藏杉は八百比丘尼が植えた。比丘尼杉とも言う。
- 46 石川県珠洲市上戸町寺社・田の中に逆さ杉（倒杉・県指定天然記念物）がある。若狭の八百比丘尼が、高照寺に祈願して、昼食の杉箸を地に挿し百日千万遍を唱えたので病気が治り、箸は根づいた。一説に目の病にかかった白比丘尼が…とある。また一説には高照寺はもと談議所と言われ、談議兵右衛門の美しい娘が白比丘尼であった。
- 47 石川県鳳至郡穴水町・出島の海辺に諸橋の一本杉がある。若狭の白比丘尼が植えたという。彼女は玉椿の村の娘で、後に八百比丘尼になった。
- 48 石川県鳳至郡柳田村神和住・丑屋地の左衛門は、若狭の白比丘尼を遠祖としている。頼母子講の土産を食べたので、非常に長寿で怪力の持ち主となった。同家の墓には白比丘尼の古墓がある。
- 49 福井県今立郡池田町池田・八百お比丘という長生きの婆が、椿の木を植え、これが枯れたら死んだと思えと言って、若狭へ行き、洞穴へ入りお経を読んでいたが、聞こえなくなったので村人はろうそくをあげた。
- 50 福井県小浜市・昔、道満とい

- う漁夫の娘が、海岸に流れ寄った人魚の肉を食べて、八百比丘尼になった。洞窟の椿が咲けば自分は生きていてと思ってほしいと言った。彼女は源平の戦いを知り、義経も見知っていた。また一説に六部が佐渡の羽茂長者に石塊を盆に入れると不思議が起こる。石塊島から少女が現れる。六部が不老不死の肉を差し出す。六部を騙し討ちにしようとする。石塊を投げて逃走。長者の老僕が帰ると少女は十五、六歳の姿で出迎えた。彼女は千年生きるはずだったが、八百歳のとき、若狭の国の殿様に二百歳を譲り、生涯を終えた。八百比丘尼と称せられた。
- 51 福井県小浜市 東勢^{ひがしせい}・昔、東勢に高橋権太夫という長者がいた。一人で舟に乗って出かけたが、三日三晩漕いで島についた。王様の使いの二人の女と何年か過ごし、帰るとき人魚の肉をもらった。娘がそれを食べて八百比丘尼になった。橋の上で転んで寿命を終えたので、その橋を「転び橋」、あるいは「ころん橋」という。
- 52 福井県遠敷郡上中町・旧野木村堤の田の中に八百比丘尼が竿をかけ、着物を干したタモの木が二本ある。距離は離れており大きくならない。
- 53 石川県羽咋郡・富木より二里の間、八百比丘尼の植えた椿原がある。〔『能登名跡志』〕
- 54 愛知県春日井市白山町円福寺・漁師が人魚を取った。通りがかりの白い着物を着た人が「庚申祭に供え祈れば、厄除けになり福德がくる」と言った。そうした後、娘がそれを食ったらいつまでも年を取らず、尼になって横穴へ入って八百比丘尼になった。この洞窟は若狭の国まで通じている。八百比丘尼の木像もある。
- 55 愛知県犬山市五郎丸・昔、八百比丘尼が住んでいた。尾張富士の祭神、木花咲耶姫命が比丘尼の夢に立って「隣の本宮山の峰より背が低い。山の上に小石一つでもあげてほしい」と言ったので、里人に話し、そうしたら家内安全無病息災になった。初めて上げたのが旧の六月朔日未明だったので、この日が石上げ祭りに定められた。八百比丘尼の入定した場所には七枝に分かれた大椿があった。位牌は庚申堂にあったという。
- 56 愛知県知多市（旧旭村大字粕谷）・大智院に大樟がある。八百比丘尼が滞在記念に植えたという。この枝葉を葉にすれば、どんな難病も平癒するし、不老不死の薬にもなる。
- 57 愛知県一宮市（旧浅井郡尾関）・小寒神社（一名、舟付大明神）の由来は、黒岩の某氏が若狭の八百比丘尼に参詣したところ、「八百尼は尾張尾関の出身で、尾張にきたころは若狭から尾関に船を着けたが、百年に一里ずつ埋まって、今では熱田宮のボタというところに着くそうだ。明治維新当時、八百媛大明神を祭った。また、尾関神社、船着大明神の祭文殿付近で足踏みをする「ドンドン」音がする。八百比丘尼が生きていた時代の船が埋まっているからという。字名を同者というのは伊勢参宮の同者が乗船したから。この尼は尾関清山で生まれたので、清山尼が本名。江戸時代にはここに八百媛明神の小祠があり、傍らの産湯の井戸は若狭の空印寺の井戸、奈良の二月堂の若狭井と相通じていた。
- 58 岐阜県郡上郡八幡町・逆杉があり大きさは五かかえあった。杉葉は逆さまであった。これは昔、熊野へ行く比丘尼の杖が根づいたため。（八百…とは特に言わない）
- 59 岐阜県養老郡養老町勢至・若狭の八百比丘尼が大岩を山頂まで運ぼうと背負っていった。琵琶湖が見えると気がゆるんで背負えなくなって、ここへ置き残したという。
- ⑧
- 60 京都府丹後町袖志・伊根の八百比丘尼は、漁の天気をあててるが、よそへ招いたら伊根でないと分からないと言った。
- 61 京都府宮津市上屋簾・八百比丘尼が穴を掘って自分を埋めたところ。
- 62 京都府舞鶴市折原・尼に仙人が人魚の肉を勧めた。尼は大久

- 保家から出た人で八百年生き、
最期は若狭の小浜の寺の境内の
椿の木の奥の岩穴で定に入った。
- 63 京都府宮津市小田宿野・八百
比丘尼の庵跡がある。
- ⑨
- 64 三重県安芸郡安濃町草生・浄
明寺跡で若狭の八百比丘尼が死
んだ。比丘尼が里の無尽講で人
魚を食べたので、八百歳まで生
きた。殿出から経ヶ峰の頂上に
達するところに神子谷がある
が、これは元「産湯が谷」をな
まったもので、ここで八百比丘
尼の産湯をくみ取った…。遺言
に「朝日さすこの木の元に金の
鶏と、金の縄を埋めておいた。
草生が没落したときは、ここを
掘り出せ」とあるが、まだだれ
も聞いたものはいない。
- 65 三重県員弁郡藤原町・市場の
山神境内や東禅寺の細野には、
昔、若狭の白比丘尼がいた。今
も古井戸がある。
- 66 三重県鈴鹿市平野町・昔、若
狭から八百歳で少女のような女
性が、伊勢神宮参拝のため通り
かかり、ここで亡くなった。そ
のため塚を築いたが「八百比丘
尼塚」である。ここで子供の長
寿を祈る風がある。
- 67 三重県松阪市佐久米町・若狭
から来た八百比丘尼が住んでい
たが、「この地の黄金はまだ若
い。まだ掘ってはならぬ」と。
この黄金の埋めてある塚を「八
百比丘尼塚」という。
- 68 和歌山県那賀郡貴志川町丸
栖・丸栖に高橋某があり、庚申
講が開かれたが、みめうるわし
い美人が出てきて加わった。次
の庚申の日にその美人の家で庚
申講をし、みなを招いた。土産
に人魚の肉をもらったが、二、
三歳の娘が飲み込んだ。数百年
後若狭の国に行き、尼寺で生活
した。若狭では八百比丘尼の祭
りとして桜餅などの催しを行っ
ているという。
- 69 和歌山県日高郡川辺町・若狭
の八百比丘尼が若野村へ来てみ
ると大水で人々は苦しんでい
た。「また荒れ野になっている。
百年前も同様、その百年前も河
原だった。これで三度目の河原
だ」。こうつぶやいて比丘尼は
去っていった。
- ⑪
- 70 米子市粟島・竜宮界に招かれ
た土産
- 71 気高郡鹿野町・八百比丘尼の
岩屋があり、河内川の人魚の肉
を食べて長寿を保った川漁師の
後家さんが八百歳まで住んでい
たところ。
- 72 倉吉市別所出村の穴田・八百
姫→若狭へ逃げた。
- 73 西郷町・玉若酢命神社の杉は
若狭の国から来た八百比丘尼が
植えた八百杉という。
- 74 西郷町岬町・蛭子神社の杉は
八百比丘尼が植えた八百杉とい
う。水若酢神社（五箇村）・大
山神社・焼火神社（西ノ島町）
にも八百比丘尼手植えの八百
杉。
- 75 五箇村・躬都良は百済の僧、
道澄に伴われ横山寺へ。南方の
豪族、比等那公の娘と恋仲、23
歳で躬都良は死ぬ。大和の母へ
遺骨を届け、若狭で一生を終え
た。
- 76 都万村屋那・松を植えたがア
マノジャクに邪魔された（釜尾
西海岸の松がこれ）
- 77 鳥取市竹ヶ渚で城主が人魚を
食べ、女子が八百比丘尼となっ
た。
- 78 鳥取市面影山・八百比丘尼屋
敷
- 79 隠岐郡西郷町下西・八百杉
（玉若酢命神社の杉に大蛇）。
- 82 安来市・曹洞宗、法雲山洞正
院の地藏菩薩は八百比丘尼の
作。
- 83 益田市・八百比丘尼の墓。
- ⑫
- 80 高知県須崎市多ノ郷字大坊・
押岡の渡付近に「大坊千軒」と
いって浦があり繁栄していた。
漁師の網に人魚がかかり、ある
幼児が人魚の少し傷ついたとこ
ろをなめたら、年を取らず若狭
の国に行き竜宮の穴の近くで余
命を終わったという。八百歳の
ころ、古里懐かしく産土の神に
石の塔を寄進しようと、須崎の
八幡さままで運んで来たもの
の、台石だけは海中に落として
しまった。他の石は寄進したの
で、それを「八百比丘尼塔」と
いう。
- 81 香川県三豊郡高瀬町・下勝間

の石塔は永和四年に若狭の八百比丘尼が建てたもの。村人は仏

事のときに膳枕をここから借りていたが、あるとき一個不足の

まま返したら、それからは貸してもらえなかった。

「町村の横顔紹介」 から（島根県西郷町役場・提供）

85 栃木県上^{かみつが}都賀郡西方町・西方で生まれて若狭で死んだといわれている。八百比丘尼堂、姿見の池がある。

86 石川県鳳^{ふけし}至門前町・八百比丘尼の植えた杉の巨木（樹齢約千年）があったが、4年前の台風19号で倒壊した。

87 福井県小浜市・生誕地（屋敷跡、根来）、手植えの椿（白玉椿）、入定地（空印寺）、その他。

88 福井県遠^{おにゅう}敷^{かみなか}郡上中町・八百比丘尼が着物を乾かしたという

「衣がけのタモ」、火の雨を避けたという「冠石」。

89 福井県遠^な敷^{たしやう}名田庄村・八百比丘尼が越えて丹後国（綾部市）へ行ったという「尼来峠」。

90 岐阜県各務原市^{かかみがはら}・八大竜王社殿に八百比丘尼の石碑がある（八百比丘尼墓跡）。近くに居住した屋敷があったといわれている。

91 三重県安^あ芸^げ安濃町^{あのうちやう}・山麓に八百比丘尼が死んだという所がある。（浄明寺跡）

92 京都府船井郡日吉町・海老坂峠に玉岩地藏尊がある。八百比丘尼がおまつりしたものといわれている。

93 島根県隠岐郡西郷町・「八百杉」若狭から八百比丘尼が来て、杉苗を植え、八百年後に来ると言って去った（杉は天然記念物）。

94 島根県隠岐郡五箇村・八百比丘尼の墓・八百比丘尼神社がある。

柳田國男監修『日本伝説名彙』（日本放送出版協会）から（ ）の数字は掲載ページ数を示す。

95 千葉県海上郡椎柴村・若狭の八百比丘尼の墓標の木で明治23年に切ったという。

96 愛知県犬山市（旧・丹羽郡犬山村）・万福寺に八百比丘尼が住んでいて入定したという大椿は、七枝に分かれていてお化け

の椿といっている。

97 愛知県東春日井郡高蔵寺町白山（現・春日井市）・円福寺山内に、八百比丘尼の生まれたという比丘尼谷があり、山腹にその祠堂がある。長寿延命および縁結びの神として今も参る者が

多い。昔、ここが浜辺であった頃、漁夫が人魚を捕り、これを供えて祭りを行くと、一人の小娘がこれを食べ八百歳まで生き、比丘尼となって諸国遍歴し、若狭国に至ってついに生きながら洞窟へ入ったという。

インターネットのホームページから

98 東京都青梅市塩舟 真言宗醍醐派の別格本山の大悲山塩船観

音寺は、大化年間（645—50）、若狭の八百比丘尼がこの地にこ

の寺を開き千住観音を奉安したのに始まる。

『伝説資料集八百比丘尼』（小浜市政策広報課）から

99 神奈川県鎌倉市

101 山梨県大月市賑岡町

103 兵庫県神崎郡 比丘尼池

100 神奈川県足柄郡箱根 石塔

102 長野県上水内郡戸隠村

104 福岡県北九州市若松区乙丸

大貝（庄浦の仙女）

舞鶴城

〔以上〕

105 福岡県山門郡瀬高町本吉

106 熊本県飽託郡 尼公塚